

ほっかいどうの社会保障

2013年5月20日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

「看護師が足りない」「患者・利用者も大変」

訪問看護の深刻な実態を告発 改善もとめ 道民医連が道と懇談



5月17日、北海道民医連は、訪問看護の改善を求めて、北海道と2回目の懇談を行いました。北見、釧路、旭川、函館をはじめ全道各地から16名が参加し、厳しい看護体制や、介護制度の問題点、患者・利用者の負担など、深刻な実態を訴え、道の対策強化と国への働きかけを求めました。(主な意見は下記)。次回は秋に行う予定です。

- 「都市部でも、地方でも訪問看護師が足りない。事業継続も難しい」
釧路 「職員が病気で休職など体制補充できず、新規は断り、車中で昼食のおにぎりを食べ対応」
稚内 「医療崩壊が加速。ある診療所が医師の病気で休診、市立病院も常勤内科医師減で外来制限、高齢者やがん末期の入院受け入れも困難で厳しい条件で在宅での療養増えている。看護師が確保できない」
【道】看護師が足りないことは認識している。訪問看護を利用できない(していない)市町村もある。
- 「複合型サービスは、支給限度額を超え、超過分は10割負担。生活保護の場合超過分は利用できない」
要介護2の場合、福祉用具の利用、または初回加算や認知症加算などを算定すると限度額を超えてしまう。実施している札幌・北見と交渉・問題は認識しているが独自助成は難しいと回答。【道】認識している。国へ要望したい。
- 「がんなど患者負担も大変。外来での高額療養費医療機関ごとで、外来・薬局・在宅で上限の3番の場合もあった。せめて一本化を」 【道】経済的支援は考えていない。高額療養費は国への働きかけ検討したい。

「看護の日」 医療・介護の改善求めて各地でとりくみ

札幌 看護・介護いきいきフェア！ JR札幌駅500人の市民が参加

5月12日(日)の看護の日、北海道医労連が、日本医労連ナースウェブ行動の一環として、札幌で「看護・介護いきいきフェア」をJR札幌駅構内イベント広場で行いました。

北海道社保協会長の橋本晃医師をはじめ全道各地の労働組合などから、医師1人、看護師23人、介護福祉士5人、栄養士4人、歯科衛生士3人、その他ソーシャルワーカーや検査技師など54人が参加。約500人の市民が、血圧や体脂肪の測定、健康、禁煙、栄養、歯科、医療制度、介護制度の相談に立ち寄りしました。「大幅増員・夜勤改善署名」が393筆の集まり、署名付きハガキ、ティッシュペーパー約3000個を配布しました。(道医連ニュースより)



旭川 30分で163筆の署名「看護師が足りないと命が守れない」と声も



旭川では、5月17日(金)午後1時から30分間、買物公園で、宣伝行動を行いました。看護師をはじめ25人が参加し、ティッシュペーパーを配り、署名も訴えました。「大幅増員・夜勤改善署名」は163筆が集まりました。市民からは、「看護師が足りないと命が守れない」「病院も患者も困る」などの声が寄せられました
写真は、行動後の写真です。